

## I. 神奈川県内 d. イベント記録堆積物

## (5) 液状化による噴砂脈 露頭剥ぎ取り標本 (小田原城トレンチ、立体復元)

標本番号 KPM-NP 54

標本名 液状化による噴砂脈 露頭剥ぎ取り標本 (小田原城トレンチ、立体復元)

大きさ 幅 1.0 m, 奥行 0.65 m, 高さ 0.6 m (台に固定)

重量 19.2 kg (台付き), 水平面は 1.7 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状に剥ぎ取り。側面 4 方向は台に固定、水平面は絨毯状のまま。大収蔵庫の平置きスペースに収納。

採集地 神奈川県小田原市城内

緯度・経度 N35°14'58.0", E139°09'23.3"

標高 10 m

露頭の種別と現状 遺跡調査に伴うトレンチ、埋め戻し消失

露頭面の向き、傾斜 不明

走向・傾斜 不明

堆積物の種別 褐色土、旧表土

年代 不明

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 松島義章

採集日 1993 年 3 月 6 日

関連文献等

小田原市教育委員会 (1994) 史跡小田原城跡二の丸中堀Ⅱ：史跡整備に伴う発掘調査概要報告。小田原市文化財調査報告書第 48 集, 82p.

解説 小田原城二の丸中堀の発掘調査にともない、液状化による噴砂脈が出現した (松島義章氏および小田原市文化財課私信)。その噴砂脈を横断する方形の穴の掘削し、壁面 4 面と水辺面の 1 面、計 5 枚の剥ぎ取りを行ったものが本標本である。方形の面の剥ぎ取りにより立体標本となっている。噴砂脈は、住吉橋東部堀底の遺構に出現した。住吉橋橋台から銅門へと渡る住吉橋のたもとから馬屋曲輪にかけて、北西から南東方向に液状化による噴砂脈の連続が確認された。剥ぎ取りは、住吉橋のたもとにて行われた (図 Id-5-2 中央の写真で剥ぎ取り採集の方形跡が確認できる)。

記録者 田口公則

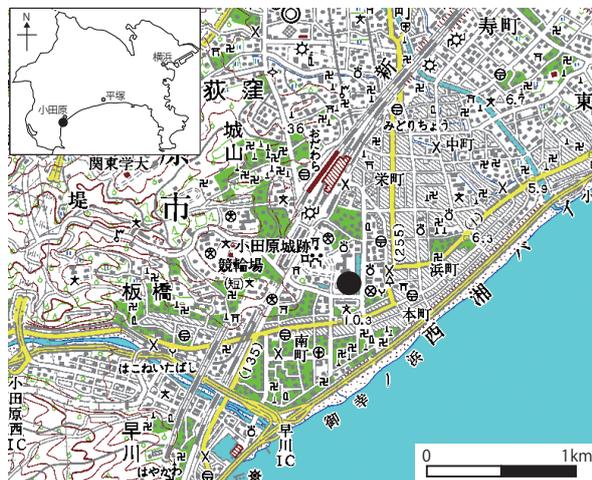


図 Id-5-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

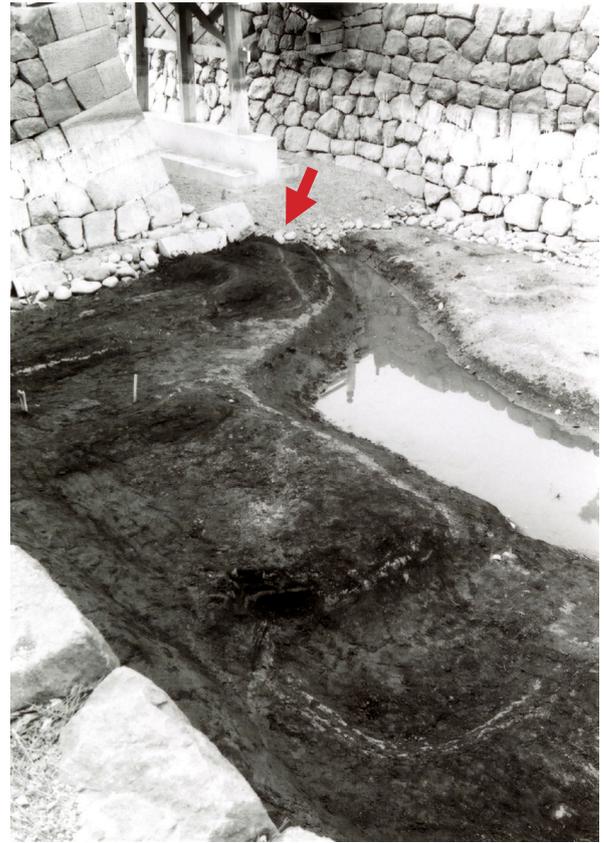


図 Id-5-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭 (上: 住吉橋下の発掘現場の様子, 剥ぎ取り標本の採集地点 (赤矢印) から写真下方に向かって噴砂脈が伸びている, 中: 写真右下の穴 (赤矢印) が標本を採集した方形の穴, 下: 剥ぎ取り面の近影)。小田原市文化財課提供。

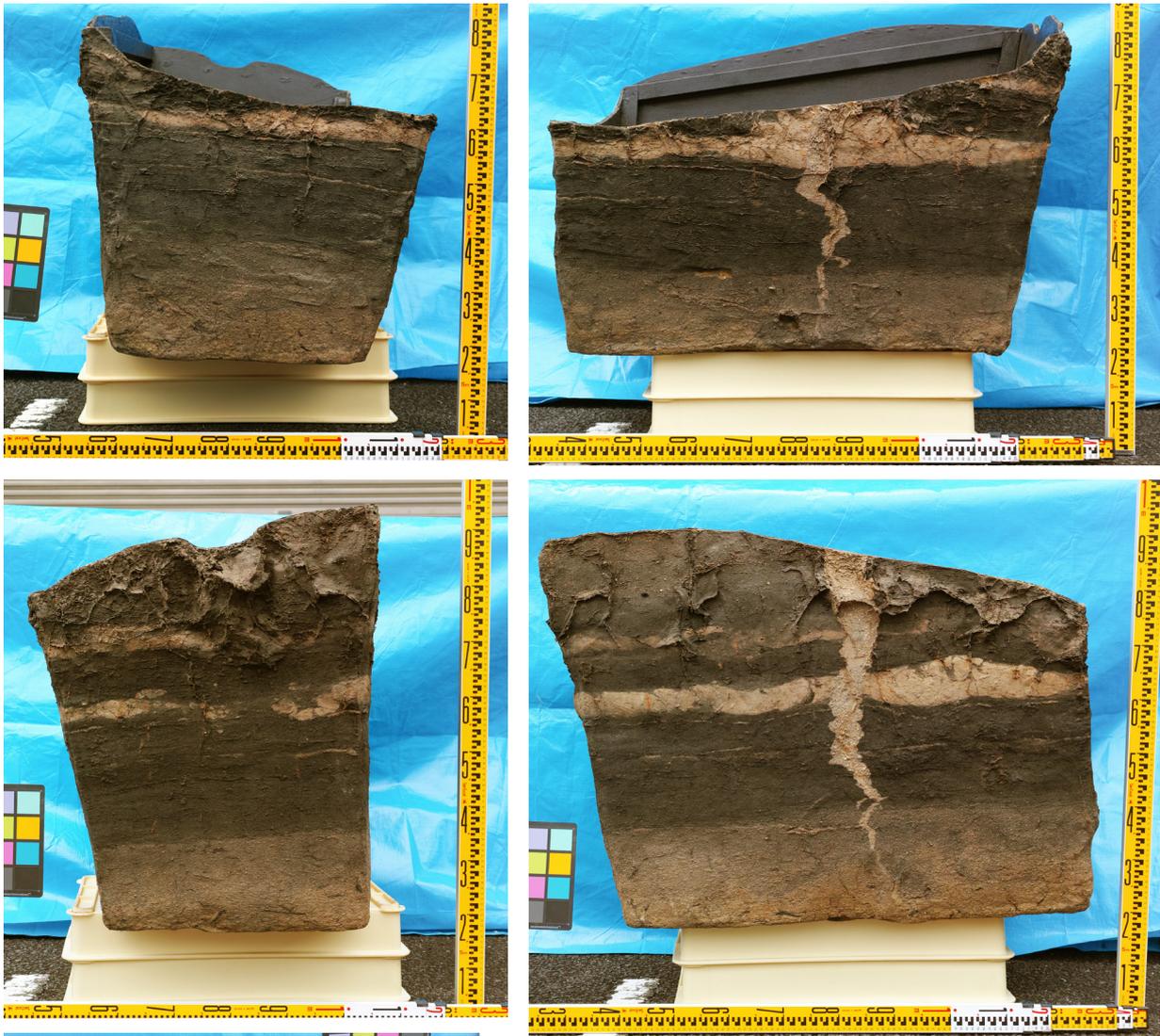


図 Id-5-3. 剥ぎ取り標本の写真（壁面4面+水平面1面（左下）それぞれ正面から撮影したもの）.



図 Id-5-4. 剥ぎ取り標本の写真（立体復元をやや上より撮影）.